



2906
572

ル 4
4873
10



思永館
 寺
 山邊里

2906
 572
 4293

3916(10)
 門
 4873
 卷 10

和州舊跡幽考

第十四卷 山邊郡

山邊里

寺

穴穂宮

廣高宮

石上布留宮 付 郡

鎮座 ○ 神庫 ○ 川上 迎 銀 ○ 八尺瓊勾玉

○ 神階 ○ 糸 ○ 五色雲

神宮寺

良因寺

石上池

石上溝

和州舊跡

布留瀧

布留山

古柄小野

布留川

長屋原

都介 付 持 櫛 伐 木 禁 削 奉

田村

木殿

二階堂

衾道

龍福寺

布留野

忘水

布留高橋

竹尾村 越

山邊 御井

衾回墓

引平山

千塚

階奉

多田末迎寺

延喜式神衣帳

大秋明神社 付 神

采久寺

笠間山

山邊里
大...

大...

和川舊跡函考

第十四卷 山邊郡

山邊里

壬二

懷中集

和川舊跡... 山邊里... 家隆

山上寺

山上村あり寺領五畝

石上在原山本光明寺ハ在原業平朝臣後代

跡一地ハ寺代立ちし色けり也ぞ老よむをうま

るぞくしとのあまこ後ひ一井筒乃流うまをい夜

もや春ひより想んと都ぞうまう千載とそ

をぞ生くるの拾芥抄よハ山上寺ハ實運寺と号

すのりんく物まのいけ乃代より改をうま本光

明寺といふやも堂一宇観音菩薩とよまへり

因よに紀き有あ常じょう乃の家地けは南なんふあらびて世よ田での
有りて有あ常じょう田でとらうひまさる。

古今ここん あり乃の石上寺いそのへありて

石上いそのへ古こ石上いそのへの阿多あの声こゑとらうひまさるは素性そせい法師ほふし

は秋あきの陽書やうしょあり乃の石上寺いそのへありてとらうひまさるは洞心どうしん

えび奈良都ならつの流上りゅうじょう郡ぐん石上いそのへの由ゆ郡ぐんあり石上いそのへ

よちとありてとらうひまさるは只ただ常じょう田でとらうひまさるは

てとらうひまさるは石上いそのへ遠とほくぬは伊いひとらうひまさるは

良らの石上いそのへとらうひまさるは御みりありは頭注かぶづ 密勘みつく

わりの原寺はらのでら代しろたらくはあり

昔むかしより石上いそのへの阿多あの聲こゑとらうひまさるは石上いそのへありは官用くわんよう

石上いそのへ

石上村いそのへとらうひまさるは石上いそのへ 古事ここと 石上いそのへ 日本にっぽん

集しゅう 年ねん 石上いそのへ 紀き 石上いそのへ 日本にっぽん

佛ぶつ 石上いそのへ 紀き 石上いそのへ 日本にっぽん

石上いそのへ 紀き 石上いそのへ 日本にっぽん

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

たらうひまさるは石上いそのへ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

乃の社やしろとらうひまさるは布ふ 乃の神かみとらうひまさるは神かみ

東乃山あり後よりあり山と色々
けりたふは乃後と色々

元徳宮

元徳天皇四十二年天皇崩御あり後より
十二月人王女一代安楽天皇石上小都と
うけつ後ひく元徳宮とあり
紀日本 延寶七
年まで凡一千二百廿六年

廣宮

人王女丑代仁賢天皇元年正月石上廣宮
宮ありて即位あり由り日本

帝王編年曰元徳宮は山邊郡石上
大長乃家の西南古川乃南の北あり
廣宮宮八同大長乃家の北あり西原

拾玉

也あり今之所好るふ多き人あり

師兼千首

心むむ記りくあり石上古川郡乃玉の月意鎮
石上古川郡乃玉あり又あり乃春を好む

石上布留社

石上坐布留御氣神社 延喜
鹿嶋の神宮同林 本紀 十握釵もて由り

拾遺

十握釵ハ其名天孫斬 古語 又天尾羽張又

伊都之尾羽張 古事 又新靈釵又布都主神

魂刀又佐士布都又速布都又豊布都

又兼正又韓鋤釵又獲布都神 本紀 日本

柞川釵乃盪觴ハ素也鳴也雲圃ありてハ

波乃大地と云り後小そ乃尾残さるり後小付
 小劍の刃と云り鉄よりひるをれバとてその尾
 と割てんそまう後へは尾乃中よ劍あり是
 草薙乃劍ありて尾張國熱田神あり蛇乃
 又天孫斬と云り大蛇と稱せし故なり古語
 初ハ大蛇乃石上よゆりて死後ハ常陸乃麻呂
 乃神宮よゆり正統
 韓劍乃劍のこころハ劍よ似て然よりけはあ
 且又先師乃洗ゆハ加良須波乃こころをん本日
 一室残布ありと云りをけり元來はむり布あり
 の川よ一乃劍あり色こころゆりゆりてと
 石本と云りこころやぶりこころよと云りこころ

河川耳よあやし乃縣女布氏わふあり
 たりその布おまのこころ劍乃ゆりゆり
 神と稱布為眼神と号しなる相と布あり
 ハぬのふと云りゆりこころをりたり麻裏又布あり
 やゆりは瑞雲と云りゆりゆり呪文とて
 手ゆりゆりありて布あり正統
 御鎮坐ハ人王十代崇神天皇乃御宇あり
 御釘乃御宇よ倭香色雄倉宇麻志摩治大
 長ありて天社園社と云りゆりハ十六世神と
 ありて大和國山邊郡石上邑よゆりゆり
 其神十種乃瑞雲ハ皇靈皇靈ありゆり鏡
 連日ありゆりゆり其子味間見倉倉あり
 それより神武天皇よゆりて後ハ慈濟

石上の大神と号し一國家あがめまほりたり
舊事紀日本紀古撰拾遺元々集神皇正統
記等よくりくあり又乃從人王十七代仁徳天
皇の由世布都至神社と石上乃御布都
村乃乃庭乃地よひまひ支布川臣神主
也とあり 新撰 氏録

▲神庫由世くまくり乃室茲社頭よまひ
てあり 高仁天皇八十七年二月廿十瓊敷余
妹の大仲姫よまくり我老好まは神室はり
どもよまくり後汝はくまくり大
仲姫いまひく我弱女乃男あていりあて
天神庫よのほりるんや五十瓊敷余ま
あうバ神庫り村とはりるんあ乃

うあらんやとあり神乃神庫よ隨樹樹とは
是そ乃縁あり 日本 由世室茲乃肉よ方五
尺の槌あり神倉よまくりひくま
小瓶よひし小剣あり

▲高仁天皇卅九年五十九瓊敷余兼葦澤の菟
御川上の宮 河内 あて千の剣とはり
て石上神宮よ納た 日本 同御宇八十七
年丹波國桑田村の獸の腹よあり八尺瓊
勾玉色爰よ納た 日本 其後天武天皇
三年八月思壁皇子よおほまろく石上の神
宮の神室とあがりてまろくせとあ徳
家より神府よはりてまろく寶物とま

子孫よ久しけりしは色記日本

▲神階の真觀九年三月十日日本從一位勳

六等石上の神よ正一位とらりしは色記類聚

▲奈の當代六月晦日の浣布よ史なり

釵として史なり又七月七日神史あり

乃の及三貞史ありて僧乃史なり

多ひあり是と史ありて僧乃史なり

推尾山龍福寺史ありびよ史なり

乃僧寺史ありて史なり

▲真觀五年六月史社史の南よ史なり

神宮寺

石上神宮寺史書と史なり

丹大和國の田史八所史施入史なり

万葉史石上史の神史授史神史なり

石上史布史の社史と史なり

石上史の社史と史なり

石上史の社史と史なり

石上史の社史と史なり

良因寺史の藥師史如來史と史なり

石上史の社史と史なり

とゆら〜小乃〜

石上池

いそのうを大納軍乃池といふ是あり

石上乃池乃逸よ鴻孫山行に於て是あり

廟塔をこのとらふの時新明天皇六年あり

日本 延寶七年より延寶九年十月あり

石上溝

いそのう乃上のみ六所東寺并川是あり

石上の溝なりハ履中天皇四年十月あり

布敷龍

依小龍尾乃跡といふその上より一里東

仁和寺池子よありゆげの時あり跡也

〜はゆらゆらと〜

古今 白川 今も又行てもんがや石上も此跡也

龍福寺

龍福寺 桃尾の跡乃逸寺領五十石

桃尾山龍福寺ハ行基菩薩乃用基とらや

観音菩薩の薩とらへり新書ハ龍福寺ハ

布敷山

石上振の山なり松村乃昔ひるべた是あり

初時多布敷乃山里のあり人々之社のゆらん

布敷野

桃尾ノ行乃道乃龍乃馬場といふあり

野あり

よろけり後の対長屋あめして古の
とくり見程ひく

飛鳥の明日香里に於ては長秋のりか
大上

都介

三代實録倭名類聚よ山邊郡とく
に取まき

都介の伴乃舟宮海系対大和國都介乃
於宮よして供御とまき

都介野の天長兼和の代よ攝一
於事代禁制とく

慶六年九月於得し名代拂ふ事代
そら茶事代中ら

三代
實録

田村

當世田村とく一郷あり石上より二里南

田村の大納言藤系朝長仲麻呂乃家あり勝

室四年四月東大寺の大佛開眼佐養よ奉
極天皇行幸ゆしてそまき

還幸ありしより此在所と号す
仁天皇室龜六年三月同八年三月は田村よ

あく宴乃ゆけ祿をく極ひし
史よん

作新村堀越

天平十二年十月伊勢國よ行幸乃時山邊
郡竹篠村乃堀越乃於宮よ入を極ふ

本殿

本殿村とくあり石上より十五の所

おひの古蹟とらんしも乃あまこ
あり会田乃墓とその中よ一かあわめ
会田墓

会田墓の年白香皇女大和國山邊郡よ
あり延喜仁賢天皇乃皇女欽明天皇乃
母后あり

会田

奇枕よ或ハ述中國先達大和國と云
ハ雲津抄とて伊奈大和國とあり只
会田乃墓れ若よまよりて一様あり
り

会田引平山

会田と引平山は姉と兄と山徑の入りまのり

明玉の引平山 会田引平山の墓乃柵条頭

史本あり 持り引平山乃時を雲霞宿やとて会人 後九条

予塚

二階堂乃近所大道乃東の山際よ墓完
ありよわりうごん色はけはれぬらうりあ
まこあり後よ予塚と云り

予塚ハ寺と云とん傳りよむのり
人乃ひひあけりとも色あはだ只賤山賤
むど乃さえはけりハ世中を記せどよ火の
西ありんと云ありて身乃うれあよ墓
完とくま入けりとも色ハ是色その世乃あや
傳りあん

大和國大國魂社

大和國大國魂社 延喜
大宮一座大國魂神 武 曰事本祀云素戔嗚尊
兒大威神大威神 兒大國魂神 毋須波比
女神 大和神

二宮大威神

三宮須波比女神 萬石執

大和國大國魂神 天照大神と二神あり
天皇大殿の肉よまはり後少事 日本
もぞゆる神代より代と十は紀年六百
余歳ありて 正統崇神天皇乃御宇
神勢と怨もるるに位階ありやと
はまらわさば天照大神ハ豊御入姫命と

あまの傷益逢色よ磯堅神 藤原と云え
先緒又日本大國魂神と淳衣城入姫命
成とく由はるるゆはるる事と云え
相りくつりやとくゆはるる事と云え
皇めく國乃肉わさぐり疾疫一死亡者
よととんとん同七と天皇は事と云え
ゆ死時よ傷益逢色日百襲姫命よ大物主神
著後ひく貴あり更よゆ及よ我ハ是大物主
神あり我兒太田々根子河として我とまつ
先よくあり右田々根子命と神
主と又市磯長尾市と傷國魂神は神
記日本崇神天皇めより延喜七と云

あまの傷益逢色よ磯堅神 藤原と云え
先緒又日本大國魂神と淳衣城入姫命
成とく由はるるゆはるる事と云え
相りくつりやとくゆはるる事と云え
皇めく國乃肉わさぐり疾疫一死亡者
よととんとん同七と天皇は事と云え
ゆ死時よ傷益逢色日百襲姫命よ大物主神
著後ひく貴あり更よゆ及よ我ハ是大物主
神あり我兒太田々根子河として我とまつ
先よくあり右田々根子命と神
主と又市磯長尾市と傷國魂神は神
記日本崇神天皇めより延喜七と云

と凡乎七百七十二年り

▲神降は貞觀元年の正月廿七日從一位降
とあり

永久寺 三代 寶保 寺領九百七十一石

肉山金剛寺院 永久寺の寺僧乃信と因

依修るよる院乃由院開基は秋亮慧

真言傳法乃人より其地五箇乃より乃

山よして中史よ山あり由をを肉山と号り

より永久寺中乃由系創るまを永久寺

乃依あり延寶七年迄凡五百六十年

▲並墨城落く後醍醐天皇志のびて入

由あり又大権實由由とくあり世後ひ肉

山是なり を平

▲真言宗醍醐金剛王院乃法流より富山
方乃山即乃法流なり

来迎寺

肉山永久寺より二里すむなり

よあり

多田乃来迎寺乃善導大師乃遺像ハ彼大

師之流くくくくくくく入城八十七を

後日域来朝乃船よのり天乎實字七の執

策よりく乃浦よ着後ひくくく乃極樂

寺やひの寺よくくくくくくの春

大和國十市郡友并乃三光寺より法し

ゆりか建曆元年乃乱遂よりくくく

回来迎寺より法しなりたの乃遺像當時

新刊

卷十四

世

新刊舊跡幽芳

光緒

